とかち新聞
主筆 松山明
(発行所)北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番
毎旬5の日発行　1カ月200円　1カ年前納　2,000円

町長選 三町とも無競争か

影響力をもつ地区労

明年四月の統一地方選にさきがけておこなわれる五月四日公示の本別町長選は現職水元孝夫氏の三選無競争独走ということになり、これに影響されたわけではないとしても、明年の足寄も小林弘道町長の三選、陸別も杉田稔町長の二選がともに無競争のうちにという見通しが強くなっています

本別 の場合は戦前から政友会と民政党との対立、戦後は自民党（岡崎派）と社会党右派（川人派）との対立が町政の底流となつて政争のはげしい町としての定評をうけ、その後川人派の没落にともなつて町内政治勢力の離合集散がおこなわれていつて現在は大まかに色わけすれば、中川後援会長だつた水元氏が二度にわたつて自民党支部長だつた岡崎克雄氏と町長選で対決したためもあつて中川派と本名派（自民党支部）の対立状態にあつて、この保守派同士の仲間割れは本別の特徴で、明春の道議選に出馬する長谷川義信氏が自民党支部への入党を認められないあたりに深刻な対立ぶりを表現しています。

この町内政治勢力対決のシンボルとしての町長選にたいして、革新派の主力部隊である地区労がどちらを支持するかによつて勝敗が決まるのが最近の十勝郡部での通り相場となつており家族を入れて二千票から三千票をもつ地区労としては社会党支持の立場なのでできれば独自の革新候補を立てるのが原則ですが、それが不可能な場合は次善策として同じ保守でも自民党色のうすい方をということで岡崎氏よりは水元氏にとなつたもので、決して水元町政に満足しているわけではないといえます。

そうしたことから、水元氏の三選独走は許せないという立場の自民党支部（井出利一郎支部長）では、ことしは手を替えて「町を育てる会」と称する超党派の組織をつくつて地区労を仲間に入れて井出氏を無所属で立起させて水元氏の三選を阻止しようとしたものの地区労は参加せず、井出氏は身内の反対によつて出馬断念となり、「町を育てる会」としては町長候補には井出氏以外はないといつて推薦しただけに、井出氏断念即水元氏独走となつたものですが、ほかにも対立候補が出ないということは、二期にわたつた水元町政に目立つた失政はなく、事業は計画どおりにすすみ順調に行政実績をあげており、現職の強味に対抗するのは容易なものでないこと、選挙が常道だがこれまでの町内を二分しての一騎討ちのシコリもマイナスで、このさい政争の町の汚名を返上したいとの空気もあります

足寄 の場合は町村合併による新町初の町長選は現職の川上貞通町長と土田今吉助役との一騎討ちで川上氏の二選、つぎは川上町長に高橋安蔵議長が対抗して川上氏の三選は阻止され、このつぎは高橋町長に対立者がなく共産党の陶守哲夫氏が独走を許さずと挑戦したものの高橋氏の二選、このあとは三選をめざす高橋町長にたいして年令が二まわりも若い小林弘道文教厚生委員長が立ちはだかりました。

高橋氏は自民党支部の顧問、小林氏は同支部の幹事長だつたので、ともに保守派同士の対決だつたのにもかかわらずこの選挙から地区労が積極的に町長選挙に乗り出したもので、それというのは、当時、高橋氏の私有地と町有地をめぐつてのゴタゴタを解決するために小林氏を支持する必然性があつたからで、社会党や共産党としてはこれまで自民党員だつた小林氏を支部として推薦するわけにはいかなかつたものの、地区労としては小林氏支持で動かない推薦町議候補は推薦からおろすといつて点検したほどだつたので、町内の革新勢力が一致して、当時、全道で一番若い小林町長を出現させたものでした。

前回は対立候補がなく小林氏の無競争二選となりましたが、これは高橋町長時代のように町政上の対立や紛争がなくなつたこと、小林町長を支持した革新派議員が町長選を通じての与党意識で町長にベッタリでなく常に是々非々の立場を守つたこと、小林氏としても高橋氏支持派議員との意思疎通をはかり派閥解消につとめたことにもよりますがなんといつても町長の若さと行動力と敵をつくらない性格が無競走をもたらしたものといえます。

しかし明春の三選もスンナリと対抗馬もなくころげこんでくるかどうかは流動的で、二期八年の小林町政に大きなエラーはないとしてもとかくの批判のあるのは当然で

一、町の立地条件によりかかつているだけで、創意くふうをもつて積極的にとりくんでいく姿勢に欠けているのではないか

二、国会議員や道議などともつと連絡を密にして政治力を活用すべきだが、これが足りない

三、国や道の役人には弱くいいなりになるような傾向がある

四、町議会の顔色をみながらで、提案には確固たる信念に乏しい

五、町の各機関の人事はマンネリ化しており、もつと視野をひろげて人材を活用すべきでないか

などの意見もあつて、もつとシツカリした町長でなければということで、保守派からも革新派からも対立候補を立てようという動きはあるものの、勝てるメドがつかなければ実現しそうにないようです。

陸別 の場合は工藤稲吉町長の四期十六年の連続長期政権（うち三選無競争）という円満無風状態にピリオドが打たれるや、このあとは、俄然セキを切つたように千業俊一助役、西野一郎町議、林精一町議、那須野嘉浩氏の四候補による乱立混戦となつて千葉氏が二十年間の女房役から首長の座についたと思つたら一期だけでアッサリと退陣してしまつたもので、これは、おりからの深刻な過疎化、道東バスの休止、病院経営の悪化、菊地組の倒産などに直面して先ゆき苦労するだけの町長職に魅力を失つたためとみられますが、このために前回は新人の杉田稔氏の無競争独走というアッケなさでしたが、果して明年はどうかということです。

商工青年層の支持によつて登場した杉田町長は、行政は全く未経験だつたが大学出の若い実業家として、職業町長にはみられないシロウトの感覚でなにかやつてくれるのではないかという期待をもたれていたものの、クロウト町長がサジを投げた形の十勝東北端に立地して三割自治のワクのなかでの悪戦苦斗ぶりが目立つて期待はずれの感じをあたえたようです。

このために明年の改選期には保守派から立起が予想される二、三名の顔ぶれが浮かんでいますが、いまのところ適当な駒をもたない革新派としては、杉田氏の誠実な人柄から、より保守的な対抗馬であれば杉田氏を推すことになるものとみられます。

町長 として百点満点の人がいるわけでもなく、町長が替つてもそうガラリと変つたことができるわけでもなく、すべて法令にもとずいて議会の議決をへて執行しているので、法令違反や議決無視などの失政がないかぎりは二選、三選とつづくのがふつうで、まして現職にあればだれよりも住民に接触する毎日が選挙運動みたいなもので、選挙になれば現職が強いのは当然ということになります。

町政の現状はよくない、この町長ではダメだといつてみたところで、その町長を信任して執行すべきことを議決してきた議会にも責任のあることで、このところ町内最大の有権者集団として町長選を左右するほどの影響力をもつ地区労が、町長や議員を推薦しつ放しではなく、推薦した責任として真に住民のための町政にもつていく役割が大切ということになります。

国のうちそと

容易ではない保革逆転

佐藤内閣が田中内閣になつても変らないように、いくらうまいことをいつても政治家などはあてにならない、国会で絶対多数をもつ自民党政府でもどうにもならないのに、まして保守から革新へといつてみたところで、野党が社会、共産、公明、民社の四党に分立してお互いにイガミあつているようではとても期待がもてないことで、むしろ野党自体が自民党政権の長期継続に一生県命に協力しているようなもの。

★政治にたいする無関心というより政治不信ー田中首相以下の政治家は常に漫画の対象になるのでは、経済ばかりが先行して政治は低次元にある証拠で、こんな政治にだれがしたかといえば、帰するところは国民の反応はサッパリで、低調な投票率は政治への無関心さを証明していること。

★そこへいくとゴールデンウイークともなれば行楽地へ向う人、人、人で狂乱物価はどこ吹く風といつた天下泰平ぶり。

★政治などというより政治不信ー田中首相以下の政治家は常に漫画の対象になるのでは、経済ばかりが先行して政治は低次元にある証拠で、こんな政治にだれがしたかといえば、帰するところは国民の反応はサッパリで、低調な投票率は政治への無関心さを証明していること。

★四月二十一日におこなわれたミニ統一地方選ともいうべき二十三市の市長選の結果は、栃木県小山市だけが革新系で、帯広市をはじめ二十二市は全部保守系の市長に

★一人一区の首長選となれば、保守派が分裂でもしないかぎりは革新派の当選は難しいとしてもこのインフレ、物価狂乱のさなかで自民党がもつとも評判が悪く不利なときに圧倒的に勝利したこと。

★なかには帯広市のように社会党と共産党とが提携共斗すれば必ず当選できたところはあつたにしろ、こうした一連の選挙の結果は依然として自民党への支持は根強く、七月七日の参議院選での保革逆転はなかなか容易ではないこと。

★どの選挙をみても益々派手になる事前運動から本番への大がかりなインフレ選挙ぶりにたいして、有権者の反応はサッパリで、低

ストップは慎重に

足寄町議会

臨時第一回の足寄町議会は三十日にひらき（欠席は香川、遠山議員）はじめに小林町長から静原の家畜伝染病発生と町職員の春斗スト参加について報告があり三月二十六日は二百五十九名中百七十五名、四月十一日は二百七十一名中百五十九名、十三日は百八十名が参加したことにたいして久保田、阿部議員から厳しい追及があり小林町長は「他町村のもようにより処分を慎重に検討する」と答えて議案に入り、町税条例の一部改正、四十八年度一般会計の町債補正の専決処分をそれぞれ原案どおりに決定しました。

自民党青年部の全道大会で 大野氏を推薦

このほど帯広市でひらいた自民党道連合会青年部の全道大会で明年の統一地方選対策を協議したなかで、十勝郡部の道議候補に大野耕太郎氏を推薦することを決めました。

池北吟道大会

日本詩吟学院岳風会池北地区吟道大会（西野一郎大会長）は六月二日午前十一時から陸別町福祉センターでひらき、帯広支部の役員陸別、足寄、本別、勇足の会員が参加しますが、無級初心者の出吟も歓迎しており、五月十五日までに陸別町大通り中谷方陸別録吟会事務局で受付ています。

カメラ 八ミリ 写真材料
上野カメラ堂
上野復興
足寄駅通り T 二五一二

新畳 表替 中古畳 フスマ張替
二段ベッド 敷物一式 マットレス
小林畳店
小林幸三郎
足寄町大通り山口整骨院前 T二四二八

庭石は道東随一の当会社へご用命下さい
造園 土木 造林 造材 請負
有限会社 大浦建設
足寄町芽登 T11
大浦 晃

一五〇キロ高速ホイルバランサー
レッカー車 新鋭機 導入！
RM アクリル 調色機
札幌陸運局認証 整備 板金 塗装
ムトウ自動車工業
ボンコツ車買い入れます 足寄町 T 二五七八

不動産についての御相談は
調査 売買 あっせん 管理 分譲
代行 登記 損害保険 代理まで
北海道免許十26
足寄不動産事務所
足寄町本通り三丁目 T二三四五

お墓を新造、改造する方などお気軽にご相談下さい（無料）
ただし毎日18時から20時まで（日曜は随時）
吉相墓研究会
主幹 高本修司
足寄町中央五区 高本とうふ店 T二五〇五

初夏の衣料
が各産地から続々と入荷いたしておりますので御光来、御用命下さい。
物価高に負けないよう足で集めて参りましたので価格も安く、また形も流行品ですので、御満足を得られることと存じますのでお早目に初夏をお買い下さい。お待ち申し上げます
株式会社 前田呉服店
足寄町駅前商店街 T二〇二三